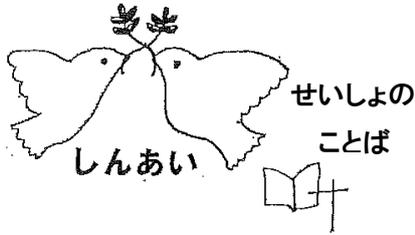


オ リ ー フ 通 信



一緒に喜んでください。

ルカによる福音書10章6節
神愛保育園

「新しい年をむかえて」

明けましておめでとうございます。

日頃より、神愛保育園に対して温かいご支援をいただき感謝申し上げます。

社会福祉法人 雲柱社は、今年認可を受けて70周年にあたり大きな節目を迎えております。今後とも、子どもたちの豊かな成長を目指し、「安心・安全」を基本に保育を行ってまいります。引き続き、事業運営に対するご理解・ご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。

「相互互助による共生社会」の実現に向けて

法人の究極の事業目標は、「相互互助による共生社会」の実現であります。

人が互いに助けあう「相互互助」というのは、実際は、なかなか難しいことだと感じています。

法人の創立者賀川豊彦は「一枚の最後に残ったこの衣 神のためにはな脱がんとぞ思う」と、人助けについての決意を書に残しています。

それはそれで正しいことだと思う反面、現代社会に忙しく生きる私たちには、他人を助ける余裕なんてどこにあるのか。日々の生活のなかで感じるストレスに振り回され、自分自身の心身がだんだん弱くされているように感じるあまり、結局、共生社会の実現なんて程遠いことだと思いがちです。

同じクリスチャンであり、賀川とほぼ同時代に生きた詩人の八木重吉は、「自分がこの着物さえも脱いで 乞食のようになって 神の道にしたがわなくてもよいのか かんがえの末は必ずここへくる」(神の道『貧しき信徒』)と詠んでいます。

賀川先生の詩と比較するならば何となく歯切れが悪いように感じますが、人間の弱さに対して真摯に向き合い本質をついているように思えます。他者のために衣を脱がなきゃいけないと思いつつも、神(=絶対的な真実)の前に立って常に逡巡するのが人間なのだ、と諭してくれています。

進化論の世界では、人間は互いに助け合ってきたことで「種」を残してきたと考えられているようです。「互いの助け合い」がサステナブルのためのエンジンとなって人間は辛うじて生き残ってきました。であれば、自分に余裕が有ろうが無かろうが、人は人に対してお互いに助け合う存在でなければならないという気持ちを、どんな時にも忘れないようにしたいと思います。

「相互互助による共生社会」の実現については、他者に対するちょっとした気遣いや寄り添い(思いやり)を大事にして支援するところから出発したいと考えます。



2023年も子どもたちの幸せを願って保育を行っていきたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。 職員一同



今年も、互いに幸せな気持ちで毎日が過ごせますように。お祈りいたします。

社会福祉法人雲柱社

理事長 小磯 満



第9回目 担当 橋本(な)

子どものころ毎週日曜日になると、母と図書館に行き絵本を借りることが習慣でした。当時からお気に入りの絵本は『14ひきのぴくにつく』です。一見当たり前のこと（下の子の世話をする、祖父母を大切にする、家族みんなで食事をするなど）ですが、家族で力をあわせ暮らすことの大切さ、楽しさを教えてくれます。この絵本は人気があり、シリーズ化もされていて『14ひきのぴくにつく』の他にも、『14ひきのおつきみ』、『14ひきのひっこし』…などが出版されています。文章は1ページに1行だけなので、イラストを十分に楽しむことができます。美しい風景と四季の移ろいの中で暮らす野ネズミ一家を、ワクワクしながら感じ取ることができます。自然や生き物を身近に感じられ、楽しく読み進められるこの絵本は、コロナ禍もあり外遊びが減っている今の子どもたちに、とても良い一冊になるのではないのでしょうか。

—あらすじ—

「きょうは なんて いい てんき。

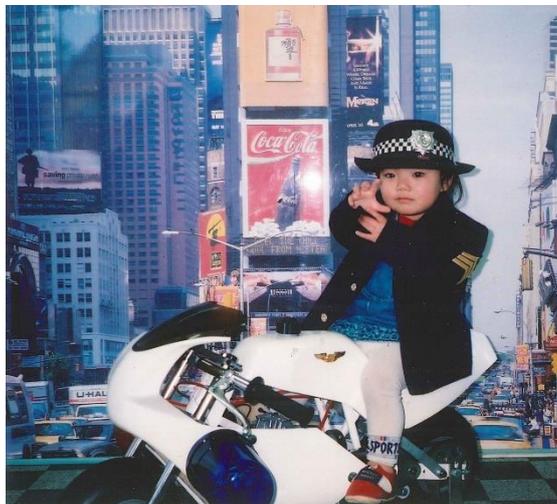
みんなで、はるの のはらへ でかけよう」

お弁当と水筒をもって、出発です。

14ひきたちは、森をぬけ、つくしの道のあるいて小川をわたり、たんぼぼ野原へ……。

14ひきたちと一緒に、春の風、春のにおいを、絵本を開いて、ぜひ感じてみてください。

出版社 童心社 より





1月 食事だより



2023年 あけましておめでとうございます。

毎日寒い日が続いています。外から帰ってきたら、手洗い・うがいを忘れずに、あったかいお料理で体を温めて、元気に冬を乗り越えたいですね！！

☆ 年長さん 大活躍！！ ☆



アップルパイ作り

保育園全員分のおやつを作り、メッセージカードと一緒に各クラスに届けました！



フライドおさつ作り

子どもたちがさつまいもを切り、目の前で揚げて、熱々を食べました。お芋が揚がる音や、揚がってきた匂いを体感しました♥



臼と杵をボールと麺棒に変えての餅つき

ボールの中で蒸したもち米を子どもたちが交代しながら麺棒でつきました。その後、片栗粉を加えて丸めていき、大・小のお茶碗に入れて、鏡餅の形にしました。

出来上がった鏡餅は、年長さんが各クラスに届けてくれました。



☆ 年中さんのクッキング ☆



担任がさつまいもを子どもの前で切りました



切ったさつまいも炊飯器に入れてスイッチON



炊きあがったご飯をのぞき込み「いいにおい！」



炊きたてのさつまいもごはんを年中みんなで頂きました

お正月の料理について

『おせち料理』 新しい年をお祝いする料理です。

一つひとつに無病息災や、子孫繁栄などのおめでたい意味が込められています。1月の献立の一部をご紹介します。

保育園で実施するメニューは、『五色なます』 『五目豆』

豆類は一年中「まめ（まじめ）」に働き「まめ（健康的）」に暮らせるように、昆布は「よろこぶ」の語呂合わせから祝いの儀には欠かせない食材だそうです。

お正月



『七草』 人日の節句（1月7日）の朝に7種の野菜が入った粥を食べる風習です。



七草は、早春にいち早く芽吹くことから邪気を払うといわれました。そこで、無病息災を祈って七草粥を食べたと言われていました。また、お正月のごちそうで疲れた胃腸をいたわるという意味も含まれているそうです。

（保育園では1月6日のおやつに七草粥を食べます。）



保健だより 2023年1月



あけましておめでとうございます

厳しくなる寒さのなか、新年が始まりました。昨年12月は感染性胃腸炎の流行があり、お休みされるお子さんがいました。コロナウィルス対策とともに、インフルエンザ・感染性胃腸炎の二つの感染症に対しても、環境面からも対策と感染防止に努めていきます。お気づきの事があれば、お声掛け下さい。

【胃腸症状がある時の食事】

嘔吐・下痢などの症状がある時には、食事には気を使う必要があります。嘔吐が続いている時には、水分のみを少しずつ摂られると効果的です。嘔吐の後には口渇感が出るため、お子さんは一気に水分を欲しがるとは思いますが、沢山の水分は刺激的で嘔吐を繰り返すことになるので避けましょう。また食事が摂れる状態になっても、肉類や油っこい料理・炒め物などは避けましょう。お粥や軟飯を水分の時と同じく少しずつ始められるといいでしょう。

真冬の上着について

寒さも増し上着（ジャンパー）も厚手のものやダウンを活用することも多くなってきたと思います。しかし、日中の活動では、活動の中で汗をかいてしまう事が多いです。活動量の多いお子さんの場合には、あまり厚手の物は避け、登降園の時よりも薄手の上着にしてみましましょう。



ひだまり ～地域の親子と園児の交流～



新年あけましておめでとうございます。今年も子育てひろば『ひだまり』をよろしく願います。これから寒さが厳しくなってくるので体調を気を付けていきたいですね。

ひだまりでは昨年80組を超える親子が遊びに来てくれました。園児との関わりも増え「保育園であそぼう」では園内や公園で一緒に遊んで楽しむことができました。また、散歩の帰りに顔を見せてくれるクラスもあり、来年度入園希望の利用者さんが「同じ年の子たちかな…保育園に入ったらこういう感じなのかな、みんなとお揃いの帽子を被ってくれるといいな」とイメージを膨らませたり、手を繋いで歩いている姿を見て上手に歩いてくれるようになるかなと期待を膨らませる方もいたり良い刺激をもらっているように感じます。

これから感染症など増えてくる時期ではありますが、対策をしながら、園児との関わりを少しずつ増やしていけたらと思っています。



「大好きなお友だちがきた！」

欠席の子どもが多く、朝の時間はしばらく、A、Bの2人だった。この2人はあまり一緒に遊ぶことがないため、ぎこちない空気が流れていたが、Aが「一緒にカルタやる？」と聞くとBが「うん」と答えた。

保育者も一緒に読み手として入り、3人で遊んでいるとCが登園した。普段Cと遊ぶことが多いBは嬉しそうな表情を浮かべた。Cも身支度を終え、自然に遊びの中へ入ってきた。次にぬりえが始まり3人はいろいろな会話を楽しみながら、少人数の中ゆったりとした時間を過ごしていた。少人数になることで普段あまり関わることのない友達同士での関りが見られた。特にBは一定の友達との関りが安心するようなので、今日のAとの関りは本児にとって今後の友達関係に繋がるといいなと感じた。来月にはクラス移動もある為、子どもたちが安心して遊べる環境を整えていきたい。

今月は、ちゅうりっぷ組のお友だちとの関係の日記です。

この場面からBちゃんは、安心できるお友だちであるCちゃんが登園してきたときに、うれしそうな表情をしたことから、Bちゃんのホット安心した姿が目に浮かんできます。

3歳から4歳ぐらいでは、お友だちとの関係がますます深まり、「大好きなお友だち」「一緒にいたいお友だち」との意識が強くなってきます。特にこの年齢では、「ごっこ遊びの世界」がとても大好きです。一人一人のイメージが大切にされながら、仲間のイメージが支えとなって遊びが展開されていきます。この遊びの中ではルールが大事にされ、自分が楽しんでいる役割を担いあって遊びことで、遊びを実感でき、満足することができます。その中から、自信をもって遊びをリードしていく子も出てきます。だからこそ、この遊びは、本当に気の合ったお友だちとのグループを成立することが大切になります。3歳児を見ていると、子どもたちの中に多くの気の合ったグループが出来上がっています。そして、クラスの中で、同時に様々な遊びが展開されている状態です。楽しんで遊んでいるときに、他のグループの誰かに遊びが中断されたり、トラブルに見舞われたりという事も起こってきます。保育者は、遊びが発展するように、交通整理をしていく役目を担っています。

まずは、この時期、安心できる遊びの環境、それは、人、場、物が保障されることです。大好きなお友だちとたくさん遊んで、人を信頼をすることを身に着けることで、次のステップである新しい人間関係へのひろがりに歩みを進めてほしいと願っています。

